

アカペラサークルと私

—大切な仲間—

B-2 中西 詩織

1. アカペラサークルの紹介

アカペラサークル fAmU (ファミユ) は去年、今の二年生の先輩 6 人が集まったことをきっかけに立ち上げられたサークルです。ファミユの名前の由来は、「アカペラをやっているメンバーは『家族』のような存在になる」という先輩の言葉をもらい、family からとってつけました。他にも、語尾が「ミュ」になっているのは、music からとったり、A と U が大文字になっているのは、秋田大学、つまり、Akita University の頭文字をとるなど、皆でアイデアを出し合ってつけました。

次にアカペラとは、何なのかについて紹介します。アカペラとは、簡単に言うと、5.6 人のバンドで歌を歌うことですが、楽器を全く使わずに歌います。普通のバンド演奏などで利用するドラムやシンバルなどの楽器の音も全て人間の口で表現します。メンバー構成として、リード、コーラス、ベース、ボイスパーカッションが必要で、個人練習と皆で歌う時間を大切に練習しています。また、アカペラで歌う曲の楽譜はなかなか売っていないので、自分たちで作らなければいけません。そのために、先輩から編曲の技術を日々学び、アレンジを加えながらの楽譜制作にも励んでいます。

アカペラサークルでは、一年生と二年生はそれぞれバンドを組んでいるので、活動の日以外もバンドごとに集まって練習しています。最近はそれぞれのバイトや他のサークルと重なっていてなかなか全員が集まれずにいますが、数少ない集まれる時間に集中して練習し、個人の時間には、楽譜を作ったり、ボイストレーニングを頑張っています。

2. インタビュー相手

私は、インタビュー相手として、同じバンドに所属し、一緒に歌っている一年生の男子を選びたいと思います。私がある人を選んだ理由は、バンド内でいつもリーダーのように皆を引っ張ってくれる頼れる存在で、その分思い出も多いからです。

その人は、皆で集まるときにはいつも自分から積極的に声をかけてくれて練習が始まります。練習の開始などもその人が来て自然と始まり、バンド内の話し合いをする時も仕切ってくれます。バンド内では自然と中心的存在となっています。

今までバンド内で色々な活動をしてきましたが、その人とは特に一緒に活動することが多かったように思います。その中でも、一緒に先輩のライブを見に行ったことが心に残っています。まだ、初心者でライブに参加したことがなかった私たちにとって、先輩たちのステージは眩しくて、大きな感動を感じたことを覚えています。

これから、サークル全体としても、バンドとしてもライブ活動が増えていくと思うので、皆で協力して楽しみたいと思います。

3. インタビュー結果

私たちは同じバンドで活動する中で、普段から疑問に思ったこと、思ったこと、感じたことなどを自由に発言し、また話し合いの時間を持つようにしています。今回のインタビューでも、改めてメンバーとこれからのバンドのあり方についてお互いの意見を交わすこ

とができました。そして、アカペラサークルに対する気持ちを高めることができたので良かったと思います。

まず、アカペラサークルに対する私の思いですが、私にとってアカペラサークルは、皆で同じ音楽を共有することができる大切な場所です。何人かのメンバーが集まる時、そう感じることはありますが、特に、数少ない限られた時間内にメンバー全員が集まって練習できる時感じるがあります。皆、バイトや他のサークルで忙しい中、全員が集まって声を合わせて歌えるということに大きな意味があると思います。fAmUというサークル名の由来にもあるとおり、一緒に歌うことで楽しく音楽を作ることができる家族のような、大切な存在であるから、これからもこのサークルを大切にしていきたいと思います。

それに対して、彼にとってのアカペラサークルは、自分の好きなことができる大切な場所だそうです。元々彼は、アカペラに興味を持っており、テレビでやっていた「ハモネプリーグ」というアカペラの番組を毎回見ている、興味を持ったのは中学生の頃で、いつかやりたいと思っていたそうです。「アカペラに対する憧れの気持ちを持ったまま大学に入学し、アカペラサークルで現在活動できているため、今までできなかった場所でもある。このサークルはアカペラをやりたいという人が集まっているので、好きなことを共有できる場所でもある。」と話してくれました。実際に活動している中で一つの曲を皆で歌う時、そして上手くハーモニーが生まれた時に、特に強く感じるそうです。

次に、これからこのアカペラサークルをどうしていきたいか話しました。まず、私の考えとしては、今までの活動を振り返ると、ある程度しっかり集まって練習をしたうえで本番と、バイトや他のサークルで皆が忙しくて集まれない時の本番を比べると、成果に明らかかな差が出ているように思うので、成功した時の本番の熱の入り方や歌全体の質が高まった時の感触を思い出して日々の練習に力を入れることが必要だと思います。また、アカペラは皆で心をつなげることが求められるから、個人練習も大切だが、一緒に練習できる時間を大切にしたいし、皆で十分話し合っ曲の全体像をイメージする段階も設けていきたいです。忙しくてなかなかメンバー全員が集まれない状況にあることなど、問題があると思うので、しっかり話し合いをして解決していきたいと思います。これは、前に先輩も話していたことだが、メンバーには、言いたいことをしっかり言って、バンドの形を皆で作っていけるような環境作りにも努めたいと考えています。

これに対して、彼も私の考えに賛成してくれたようでした。彼は、「曲のイメージ、どのように歌うのか、大事なところはどこか、ブレスの位置確認、合わせなど重要なことがたくさんあるが、これらを練習するには人が集まる必要がある。これは、絶対だと思う。」と話してくれました。これに加えて、「個人練習は大切だと思う。教えてもらうのを待っているのではなくて、自分からやろうという積極的な姿勢が、これからのアカペラをやる上で大切だと思う。来年には後輩ができるかもしれないし、中途半端な恥ずかしい発表はできない。その自覚を皆に持ってほしい。」という考えも話してくれました。私は、これを聞いて、やはり一人がどんなに頑張ろうとしても皆が違う方向を見ている前には進めないから、しっかりと方向を話し合っ定めることの大事さに改めて気づかされました。そして、今回インタビューで交わすことができた意見を元に、改めて皆で話し合いたいという気持ちが湧いてきました。

4. アカペラサークルと私

このサークルをコミュニティとして大切だと思っている理由は、アカペラは私にとってずっとやりたかったことで、今、友達と楽しくできることを嬉しく思っているからです。私は中学生や高校生の頃からテレビでアカペラをやっている人たちを見て憧れていました。でも、私が通っていた中学校や高校、また周りの友達でもアカペラをやっている人はなかなか見つからず、機会がありませんでした。私の父や母も私が録画したアカペラの映像を夢中になって何度も見ている様子から熱意を感じたらしく、「大学でアカペラやってみたら？」と言ってくれました。アカペラを一緒にやってくれる人がいるかどうか不安な気持ちのまま大学に入学して、いざサークル見学へ行ってみると、アカペラサークルを発見できたので、すぐにサークルへの所属を決めました。

また、このサークルは私が私らしくいられる場所でもあります。サークルのメンバーは学部学科が違ったり、キャンパスも違うため、なかなか会うことができませんが、みんなと一緒に練習しているときの私は生き生きとしているように思います。考えてみれば、みんなアカペラサークルに入らなければ出会うことができなかった人たちなので、アカペラを通してみんなとつながることができたと言えると思います。サークルは、アカペラを通じた出会いの中、自分らしく音楽を楽しめる場所だと思っているので私にとって大切なコミュニティだと言えます。

5. クラスの感想

この多文化コミュニケーションは、私にとって初めて留学生と関わった時間でした。実際に話してみると、様々な質問や感想が聞けたので、新鮮でした。留学生が自分の国の文化と日本の文化の違いを話しているのを聞くと、改めて多文化の面白さを知ることができた気がします。改善点として、全員が、自分が書いたレポートについて評価してもらえる時間がもっとあればいいと思います。